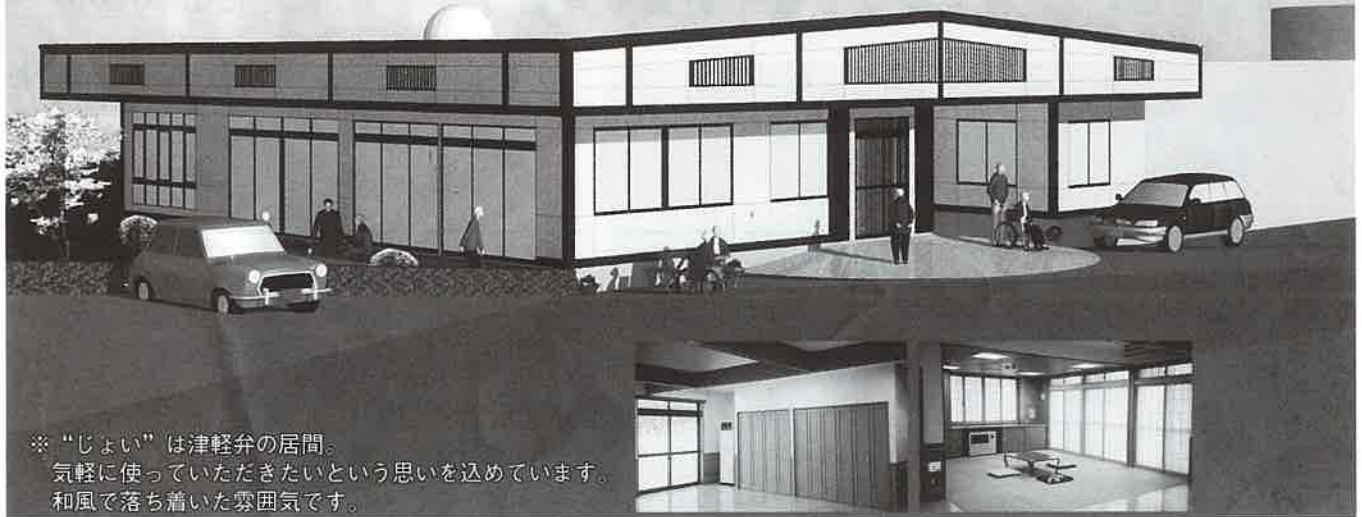


サンアップルホームデイサービスセンター

『じょい』オープン

間近



※「じょい」は津軽弁の居間。
 気軽に使っていただきたいという思いを込めています。
 和風で落ち着いた雲田気です。

年頭の挨拶

理事長 奥田 稔

新年明けましておめでとうござい
 ます。皆様には、ご健勝で、
 ご家族お揃いで佳い年を迎えられ
 ました事を心からお慶び申し上げ
 ます。迎えた二〇〇六年は、これ
 まで過ごした年と比較して少しで
 も福祉サービスを必要とする方々
 にとって「良い年」となるような
 結果を出せる年にすべく、職員一
 同これまで以上の努力をお約束申
 上げます。

さて、旧年は、介護保険法施行
 後第一回の抜本的見直しが行われ
 ました。又、「障害者自立支援法」

が成立しましたが当事者や関係者
 の意見が十分反映されていない点
 はいなめません。しかしながら、
 障がい者福祉にとって大きな変革
 の時代に入ったことは間違いあり
 ません。この支援法の発芽は25年
 前の国際障害者年活動にありまし
 た。81年のこの年は、『完全参加
 と平等』と日本語訳したスローガ
 ンのもと、世界の仲間と共同活動
 をし、その後20有余年を経たいま
 も、アジア太平洋障害者の活動が
 二期目となる新たな10年間の活動

を進めています。

七峰会は、地域ニーズと時代の
 求めにこたえるべく、弘前市の大久
 保地区に次いで昨年若葉地区に見
 童・障がい者・高齢者のデイサービ
 スセンターと高齢者グループホーム
 を開設いたしました。そして、本年
 は、サンアップルホームの認知症デ
 イサービスセンター「じょい」の開設
 につづいて秋には黒石市に療護施設
 「山郷館くろいし(仮称)」を開設し、
 県内初の難病患者の受け入れや新
 たなニーズを持つ方々への対応など
 を進めています。

多様なニーズにこたえられるよう
 地域福祉活動エリアを一層拡大し、
 津軽地域の新たな福祉サービスの
 活動拠点となるべく準備を進めて
 いるところです。

皆様の更なる大きな力を賜り、
 共に地域福祉の充実発展をはかり
 たく存じます。何卒、本年もご支援
 の程よろしくお願い申し上げます。



御百寿顕彰 本田スワ様

特別養護
老人ホーム

サンアップホーム

サンアップホームに入所されている本田スワ様は、12月9日に満百歳の誕生日を迎えられました。弘前市で百歳を迎えられたのは今年度、本田様で8人目であり百歳以上の長寿者は24人になるそうです。

「百賀の祝い」には、サンアップル入所利用者ばかりではなく、高杉地区デイサービス利用者の馴染みの方々の多くがお祝いに駆けつけてくれました。また、孫の本田浩様ご夫妻も来園され、弘前市から贈られる顕彰状・金杯・祝菓子を榊隆夫高齢福祉課長より受け取る本田様を全員で温かく見守りました。サンアップホームからは、心づくしとして花束や色紙・プレゼントが手渡されましたが、満面の笑みとともに涙ぐまれる本田様に、大きな拍手が送られました。

ここで、本田様を少しご紹介します。明治38年12月9日、弘前市榎ノ木に生れ、15歳で同市高杉の本田源太郎様と結婚。6人の子供をもうけ（うち4人健在）孫6人、ひ孫8人、やしやご6人がいます。サンアップルとのお付き合いは、デイサービスから始まりまし

た。熱の湯つことレクリエーションを楽しむ健康に過ごされていましたが、足腰が弱り車椅子の使用となりました。デイサービスとショートステイを利用しながら、平成17年5月にサンアップルホームへ入所されています。コーヒーが大好きなハイカラな所があり、穏やかでいつもニコニコしています。本田様は、お祝いの後に、このような感想を述べています。「わいだば、120歳まで生きる。おめ達も100歳まで生きれば、おもしろいびよん。」（隣りに座っている方に）「あと、5年生きれば、おめも100だ。皆で100歳になるべし。」



通勤寮「拓心館」 に御下賜金

知的障害者
通勤寮

拓心館

拓心館長 高橋正安

御下賜金（おかしきん）とは、天皇誕生日に際し天皇陛下より社会福祉事業御奨励の思し召しにより、民間社会福祉事業に係る事業成績優秀な施設・団体に対して金一封が下賜されるものです。毎年、各都道府県それぞれ1施設又は1団体を推薦し、決定後各都道府県知事より伝達されます。

平成17年度、青森県では社会福祉法人七峰会が経営する知的障害者通勤寮「拓心館」に決定し、去る12月26日、県庁知事室において三村知事を伝達者に、御下賜金の伝達式が行われました。当日は、奥田理事長と館長の高橋が県庁に出向き御下賜金を拝受しました。七峰会では平成11年に拓光園が頂いており、今回で2回目となりました。拓心館が御下賜金を頂くことができたのは、開設以来の館長並びに職員の真摯な努力の積み重ね、保護者の皆さんの協力、拓心館を利用している仲間達を受け入れて頂いた会社や地域の方々の理解があったお陰であると思っています。これまで拓心館を応援し

て下さった皆様に衷心よりお礼申し上げます。

拓心館では御下賜金を励みに、尚一層仲間達や地域の方々の就労支援と生活支援に努力する所存です。今後とも宜しく願います。

◀平成17年12月27日「東奥日報」

拓心館(岩)に 御下賜金伝達

は、拓心館など全国六十施設、団体が選ばれた。

社会福祉法人七峰会 伝達式には奥田理事長（弘前市、奥田総理事長）と高橋施設長が出席。三が運営する岩木町の知的障害者通勤寮「拓心館」と伝達状を手渡された奥田理事長は「地域福祉の向上に、より一層努めます」とお礼を述べた。

御下賜金は天皇誕生日に際し、天皇陛下から民間の優良社会福祉施設、団体へ贈られる。本年度生がいます。



三村申吾知事から御下賜金の伝達状を受け取る奥田総理事長

多くの方々に 支えられ

知的障害者
更生施設

拓光園

拓光園にはたくさんの方がボランティアとして来園し様々な場面で利用者を支えて下さっています。が今回はその活動をご紹介します。岩木町婦人部の方々は月一回衣類の補修のために来園し、ズボンの丈を調節したりほつれた袖をつくろったり、利用者の色々な要求にきちんと応えて下さっています。

弘前市社会福祉協議会のボランティアサークル所属の木村弘子さんは、利用者のガイドヘルパーとして外出に付き添って来ています。また、黒石市の「メンズカット・ブリーズ」の鳴海幸子さんは利用者の散髪カットのために定期的に来園して下さいます。

園の行事の際は、弘前学院大学、弘前福祉短期大学、弘前大学、弘前女子厚生学院等の学生の方々が多くお手伝いに来て、行事の運営や利用者の対応にと頑張ってくれています。

昨年11月末に行われた拓光園祭にも多くの学生の方々が来園し舞台発表や、ユニット展示のお手伝いをしてくれました。その中で弘前学院大学1年乗田麻衣子さんに

お話を聞いてみました。

私は今回拓光園祭に参加し、作品展即売の係りになりました。利用者の皆さんが一生懸命心を込めて作った手芸作品や陶器を一つ一つ並べて販売しました。拓光園にボランティアとして来るようになったのは今年からですが、今回初めて利用者の方と同じ話題で盛り上がる事ができました。ボランティアだからこそ味わえる感動やふれあいがたくさんあると実感しました。



拓光園は他にも、様々な場面でも園と関わりを持ち利用者を支援してくださる多くの方々に支えられながら今年も着実な歩みを進めてまいります。

旭光園製品を ご家庭でも

身体障害者
授産施設

旭光園

ワゴン販売始めました

旭光園では「製品のピーアールと販路拡大」を一つのテーマに掲げ取り組んでいます。その第一弾として昨年より法人傘下5施設7ヶ所に、陳列ワゴンを設置し旭光園製品の小売販売を開始しました。

旭光園の授産活動は、ゴミ袋・レジ袋などのポリエチレン製品作り、多種多様なラベル印刷、割箸の販売などを行なっています。これまで各業者からの下請け作業を主体に活動してきたこともあり、地域の方へ活動内容のピーアール不足が反省として出ました。そこで旭光園の製品を通し、活動のご理解を得ることを目的に、当園玄関先にワゴンを設置したところ、

くちコミで情報が広がり多数の方が来園、製品を買っていただけられるようになりました。さらに昨年秋季からは法人内の各施設にも、同じ様に旭光園を理解していただくためにワゴンを設置し、製品の小売販売を始めました。販売している製品はゴミ袋が主体ですが、少しでもオリジナリティーを持たせようということ、「お父さんのゴミ

出しが楽しくなる」手さげタイプのゴミ袋（13枚入）、「市販の袋よりも多くゴミが入る」紐つきゴミ袋（13枚入）を考案しました。また、袋類の他に割箸も置き全てワンコイン（100円）で販売しています。

始めたばかりのワゴン販売ですが、沢山の方のご協力もあり上々の滑り出しです。ただ決して売上げだけを目的としているのではなく、旭光園を利用して下さる方が製造したものを通し、旭光園の活動を理解していただくことも大きなねらいです。

これからもワゴンの設置箇所を増やしていく予定ですので、何かの折に販売ワゴンを見かけましたらお手にとりて見てください。



地域支援の新たな拠点、づくりへ向けて

身体障害者
療護施設

山郷館

今年、山郷館にとって大きな節目の年となります。その一つは、「障害者自立支援法」の施行による変化です。障がいの種類によって別れていた施策が一元化され、障がい種別によるサービス格差をなくし、働く意欲のある障がい者が働けるような自立支援や施設の再編成などが行われます。福祉サービス利用にあたって選択の幅が拡大すると同時に、制度を支えていくための本人負担も増えることになりました。この制度のスタートで利用者の皆さんにはいろいろな変化や影響が生じることになりませんので、今後の将来設計についてこれまで以上に積極的に検討できるように支援していきたいと思えます。

二つ目は、地域支援の新たな拠点として、現在の山郷館を分離し、黒石市に定員30床の療護施設を開設することです。これにより、南黒地区出身の利用者は、より実家が身近になってご家族や地域との交流が促進されます。新設の施設は、生活環境を重視した全個室で三つのユニットからなる完全ユニット方式をとるほか、県内初のALS患者（筋萎縮性側索硬化症）の受け入れやショートステイ、相談支援等の事業も計画されており、地域社会から期待されています。また、現在の山郷館も同じく定員30床となるため、個室の数が増えるなど利用者の皆さんの住環境が改善されることとなります。

障がい者福祉の環境が大きく変化していく年となりますが、利用者本意での施設運営を基本に、

- ① 児童から高齢者まで
- ② さまざまな選択肢から選べるサービス
- ③ それぞれの地域で
- ④ いつでも展開していく

という、『トータルな支援』を今年も推進していきます。

何卒、皆様のご支援をよろしく
お願い申し上げます。



後援会施設訪問研修

平成17年11月9日（水）、七峰会後援会平成17年度事業として、施設訪問研修が行われました。当日は小雨降る肌寒い天気でしたが、24名の会員の皆様が増加され、弘前市若葉に今年開設した『山郷館児童・障害者デイサービスセンターくれよん』、知的障害者デイサービスセンターエイブル『サポートセンターわかば（高齢者デイサービスセンター&グループホーム）』の三施設を見学しました。『くれよん』では障がい児の皆さんの屈託ない明るさと、職員との支援活動に感銘を覚え、『エイブル』では知的障がい者の作業活動の熱心さに触れ、このセンターの重要性に思いを新たにしました。最後に見学した『わかば』では、眺望の良い落ち着いた雰囲気の中で、高齢の方々がゆったりと居心地良く過ごされているのが感じられたのか、その後の懇談会ではグループホームの入居やデイサービスセンターの利用についての質問が集中しました。約2時間の訪問研修でしたが、満ち足りた一刻（ひととき）を過ごすことが出来たことをご報告致しますと共に、参加下さった会員の皆様に深く感謝申し上げます。

（事務局）

<p>総合支援</p> <p>弘前市委託事業 身体障害者相談支援事業 弘前市障害者生活支援センター 青森県指定 津軽障害者就業生活支援センター TEL 82-4520</p>	<p>知的障害者援護</p> <p>拓心館 TEL 82-4520 知的障害者グループホーム（9か所） 生活自立訓練事業 地域生活支援センター 勇心学園 デイサービスセンターエイブル 光園 TEL 96-2331 通所利用事業 拓光園デイサービスセンター 拓光園短期入所支援センター 拓光園障害児短期入所支援センター 知的障害者グループホーム（3ヶ所）</p>	<p>身体障害者援護</p> <p>旭山郷館 TEL 97-2211 身体障害者（児）短期入所事業 山郷館デイサービスセンター 山郷館デイサービスセンター弘前 山郷館デイサービスセンターくれよん 山郷館訪問介護センター 山郷館訪問介護センター黒石 光園 TEL 57-5155 通所相互利用事業 旭光園身体障害者短期入所事業 身体障害者福祉ホーム さわら</p>	<p>特別養護老人ホーム</p> <p>山郷館居宅介護支援センター TEL 97-2941</p> <p>サンアップル居宅介護支援センター TEL 97-2131</p> <p>サンアップルホーム TEL 97-2111 サンアップル短期入所生活介護センター サンアップルホームデイサービスセンター サンアップルヘルパーセンター グループホームアップル （認知症対応型共同生活介護） サポートセンターわかば 弘前市大字若葉2丁目15 TEL 37-1165 グループホームわかば デイサービスセンターわかば 弘前市委託事業 サンアップル在宅介護支援センター TEL 97-2131</p>
--	---	--	---